

ジェンダー平等への一里塚

高教組は執行委員長が女性です。専従執行委員 4 人のうち女性は 2 人（50%）、本部役員 10 人のうち女性は 3 人（33%）、支部・分会役員の女性比率は約 35%、基幹会議の女性参画率は約 42%です。自慢めいた話で始めてしまいましたが、後が続きません。女性がこんなに運動にとりくんでいるにも関わらず、今年度は女性部長の選出がかないませんでした。



日本新聞協会は 4 月 23 日、加盟する新聞や通信社 99 社の社員と役員、約 3 万 6 千人を対象にした「ジェンダー・多様性に関する意識調査」の結果を公表しました。9,630 人が回答しています。職場内で男女の地位が「平等だ」と回答した男性は 40.7%、女性は 26.0%、「男性が優遇されている」と感じている女性は「どちらかといえば」を含め 58.3%、男性 29.4%の約 2 倍です。平等でないと感じる場面は男女とも「管理職や経営層に登用される男性が多い」をトップに挙げ、「経営方針や紙面編集に男性の意見が強く反映されている」が続きます。この調査結果を見ると、私たちが日常的に目にし、情報を得ている報道にもバイアスがかかっている可能性を否定できません。性別による働きにくさを感じたことがあるとしたのは、「とても」「ある程度」を合わせて全体の 38.5%、働き方に関し重視する会社の施策では全体の 95%近くが「ハラスメント被害への対応の強化・充実」と答えました。

ジェンダー平等の実現は女性だけの問題ではありません。アンケート結果を見ると、少なくとも男性が男女の地位が「平等でない」と思い、性別による働きにくさを感じていることが分かります。ジェンダー平等の実現によってこのことを軽減、解消できます。

ジェンダー平等が実現したら、子育てや介護が落ち着いたら、遠距離通勤が解消出来たら・・・、と人によって事情はそれぞれでしょうが、まずは現実を足場にして、自分に出来る一歩を踏み出してみてもどうでしょう。女性の背中を後押ししたいと思います。ヘーゲルも『法の哲学』の中で、「ロドスはここだ、ここで飛べ」と言っています。頑張ろうね！

岩手県高等学校教職員組合
執行委員長 村上 智加子